

日本語学習指導案

海田町立海田西小学校

- 1 日 時 平成29年12月1日(金) 第6校時
- 2 学 年 第3学年 日本語学級(女子2名)
- 3 場 所 日本語教室
- 4 単元名 間の数に目をつけて

5 単元について

(1) 単元観

学習指導要領第3学年の内容(3)イには、「乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。」と示されている。

本単元では植木算を扱う。等間隔に配置されたものの数とそれらの間の数を対応させ、関係を捉えてから、乗法を適用して解決するものである。直線や円周上に等間隔に配置されたものの数と間の数との対応関係に着目して問題を解決することを通して、問題解決の能力を伸ばすことをねらいとして設定されている。

(2) 児童観

本学級の児童はいつも意欲的に学習に取り組んでいる。事前に行ったかけ算の復習テストでも、正答率は85%となっており、基礎的な計算問題はよくできている。反面、文章問題になると誤答が見られた。傾向として、教材文に出てきた数値を短絡的にかけているために式が間違っているもの、解答の単位が問われているものと一致していないものがあった。これは、問題場面を十分に理解していないことや、問題文の数値の意味を考えていないことに起因する。児童には、この学習を通して、作図をすることによってどんなときに乗法が用いられるのかを理解させていきたいと考えている。

また、日本語の理解については、日常会話については問題ないものの、算数の教材文に「見当」、「いくつ分」、「～倍」、「ごとに」などの学習用語が出てくると、よく意味が分からず「〇〇って何?」と質問している。

(3) 指導観

指導にあたっては、児童の実生活に根ざした学習問題を設定する。児童がグラウンドの植木の写真を見ながら、学習課題をつかむ過程で、「やってみたい。考えてみたい。」という意欲を喚起したい。

また、分かっていることや求めることが何なのかを整理したり、語句の意味についても確認したりしてから、自力解決へと向かわせる。情報を整理することで、児童が考える方向付けがなされると考えている。

交流場面では、算数の学習全体を通して、式と図を対応させたり、数値の意味を確かめ合ったりさせながら、思考を深めさせていきたい。

日本語指導にあたって、意味のよく分からない言葉が出てきたときには写真や絵カードを使って、語句の意味も理解させながら、取り組んでいく。

6 単元の目標および内容

- 直線や円周上に等間隔に配置されたものの数と間の数との対応関係に着目して問題を解決することを通して、問題解決の能力を伸ばす。

7 単元の評価規準

数学的な考え方	知識・理解
① 対応の考えをもとに、直線上に等間隔に配置された場合について、間の数とものの数の関係を考えている。	① 直線上に配置された場合と円周上に配置された場合の違いを理解している。

8 本単元において育成したい資質・能力

本校で育成したい資質・能力は、①知識・情報 ②課題発見・解決力 ③主体性 ④チャレンジ精神 ⑤自らへの自信 の5つである。そのうち、本単元で重点的に指導したい資質・能力は次の3つである。

育成したい資質・能力	本単元の学習を通して目指す姿
課題発見・解決力	自力解決の場面で、自分なりの考えをもっている。
主体性	長さの求め方について、進んで考えたり、説明したりしようとしている。
自らへの自信	振り返りで、本時に身に付けたことを生活に生かそうとしている。

9 本時の学習

(1) 本時の目標

直線上に等間隔に配置されたものの数と間の数との対応関係に着目し、歩いた長さの求め方を説明することができる。

(2) 本時の評価規準

対応の考えをもとに、直線上に等間隔に配置された場合について、間の数とものの数の関係を考えている。
(数学的な考え方)

(3) 準備物

ホワイトボード、掲示物

(4) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (○) 教科の指導事項 (★) 資質・能力 (評価方法)
導入	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>2 解決への見通しをもたせ、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>◇児童が普段歩く場所を題材として扱うことで、児童の興味関心を高める。</p> <p>◆教師が問題文を範読した後、児童に読ませる。</p> <p>◇分かっていることや、求めることは何なのかを確かめ、情報を整理する。</p> <p>◇「ごとに」などの語句の意味を確認する。</p> <p>◇今までも問題場面を図にすることで課題を解決してきたことを想起させ、解決への見通しをもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">歩いた長さの求め方を説明しよう。</div>	

展開	<p>3 自力解決をする。</p> <p>4 交流する。</p>	<p>◆作図できない児童には、問題文をくり返し読むよう助言する。</p> <p>◆「図の中に記入できる数はないかな？」と助言し、問題場面を捉えることができるようにする。</p> <p>◆途中までしか書けていなくても、そのことを賞賛し、このあとの交流への意欲付けをする。</p> <p>◆交流後、赤鉛筆で自分の考えに加筆修正させる。</p> <div data-bbox="459 786 1114 931" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・〇〇さんの書いた3を他の言い方であらわすと、$4-1$だ。</p> <p>・かけ算にしているのは、間の数が3個あるからだろう。</p> <p>・〇〇さんは、木が4本あるから、4をかけたのだと思う。</p> </div> <p>◇お互いがどうしてその式や数値にしたのかを考えながら聞くように助言する。</p> <p>◆分からないところや、はっきりさせたいところを述べることも賞賛していく。</p> <p>◇問題の数値を変えて、木が6本のときも、1を引いて間の数を求めれば道のりが分かるかを確認し、一般化していく。</p>	<p>○直線上に等間隔に配置された場合について、間の数ともこの数の関係を考えている。(ノート・発言)</p> <p>★自力解決の場面で、自分なりの考えもっている。(ノート)</p> <p>★長さの求め方について、進んで考えたり、説明したりしようとしている。(発言)</p>
まとめ	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>6 適用題をする。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<div data-bbox="518 1395 1348 1507" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○mごとに木があるところの長さを知りたいときは、図にかいて、間の数が何こあるかを考え、かけ算をするとよい。</p> </div> <p>◇本時で学んだことを生かして問題を解決するよう、助言する。</p> <p>◆電柱などの言葉の意味を確認する。</p> <p>◇観点にそって振り返りをさせる。</p>	<p>○間の数に着目して、長さを求めることができている(ノート、発言)。</p> <p>★振り返りで、本時に身に付けたことを生活に生かそうとしている。</p>

1 2 板書計画

めあて 歩いた長さの求め方を説明しよう。

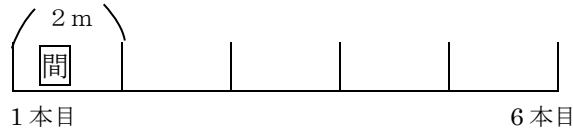
保健室の前には、2メートルごとに木が植えてあります。ここを1本めから4本めまで歩きます。何メートル歩くことになりますか。

写真

児童の考え

児童の考え

1本目から6本目まで歩くと？



$$\begin{aligned} &\cdot 2 \times (6 - 1) = 10 \\ &\cdot 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 10 \end{aligned}$$

答え 10メートル

まとめ ○mごとに木があるところの長さを知りたいときは、図にかいて、間の数が何こあるかを考え、かけ算をするとよい。

写真

線路の上に40メートルごとに電柱が立っています。
1本目から8本目まで電車が走ると何メートル走ったことになりますか。

式 $40 \times (8 - 1) = 280$ 答え 280m

